

『心の開国』

ウクライナを通して見る日本

～まず、知ること。そして、考える～

第44回 IC国際フォーラム
報告書

2022年11月3日（木）
国連大学1F アネックス・スペース

日 程

9:40 開会

9:45 挨拶 国際 IC 日本協会 会長 藤田 幸久



9:50 挨拶 国際 IC 推進議員連盟会長
元外務大臣、元文部大臣
参議院議員 中曽根 弘文



9:55 難民を助ける会 活動紹介



10:00 基調講演（逐次通訳）
セルギー・コルスンスキー
駐日ウクライナ特命全権大使
「What Japanese citizens and the world can learn from Ukraine」
日本人と、世界が、ウクライナから学ぶこと

11:30 ランチタイム（休憩）

13:00 ウクライナ関連交流会報告

13:15 参加者からの個人シェアリング
テーマ：「心の開国」

14:30 静かな時間とシェアリング
小人数のグループディスカッション

15:30 全体セッション

16:00 クロージング

『心の開国』

ウクライナを通して見る日本

～まず、知ること。そして、考える～

相馬雪香*国際IC日本協会元会長が、1979年に「難民を助ける会」を創設した際のスローガンは「インドシナ難民支援を通して、日本人の『心の開国』をしましょう」でした。

令和の時代になりましたが、私たちは、『心の開国』をなしとげているのでしょうか？
普段の生活からは少し離れて、
今、世界で起こっていることを知り、学び、
私たちも『心の開国』を考える時間をもってみてはいかがでしょうか。

*相馬雪香（1912～2008） 「憲政の父」尾崎行雄の三女

難民を助ける会 活動紹介



AAR Japan [難民を助ける会] は
国内と海外で、
紛争・災害あるいは障がいなど
さまざまな理由によって
社会的に弱い立場にある人々を支援する
国際NGO

優しい気持ちを確かな支援のカタチに
変えて、現場に届けます。



© 多岐川文庫撮影



川瀬文庫撮影



日本人と世界が、ウクライナから学ぶこと

セルギー・コルスンスキー駐日ウクライナ特命全権大使

【講演抄録】

独立当時は、独立を脅かすような脅威やリスクは見当たらず、軍隊を削減し、核兵器を放棄し、先端技術を用いた航空戦力も廃棄した。今はその軍用機を、ロシアがウクライナへの攻撃に使っている。

2014年にロシアは、ウクライナからの挑発など何もないのに、クリミア半島を占領しドネツク州とルガンスク州の一部を占領した。つまり、ウクライナにとって、戦争が始まったのは今年の2月24日ではなく、8年前の2014年2月26日だった。必ず奪還する。

Lesson 1 これまで作り上げたものは破壊された

ロシア軍から奪還した後の写真に写っているのは、軍の施設ではなく町民の住宅、学校、病院などの民間の建物である。全てが破壊されてしまった。



この街を奪還した後で、ウクライナ軍が発見したのは数百人も町の人々のお墓だった。

Lesson 2 愛する人は一瞬にして殺された

インフラが破壊されることは、最も悲惨なこととは言えない。一番悲惨で辛いことは、人が殺されること。ロシア軍は、ウクライナの民間人を数万人も殺している。武器を持たず、普通の生活を送っていた人々を。何故、ロシア軍はウクライナの民間人を殺しているのか。その答えはただ1つ、ロシアの敵だから。

上の左の写真の男性は、毎日お墓参りに来る。お墓に入っているのは、彼の息子夫婦とその2人の子供（彼にとっては孫）を含む家族。子ども2人は、まだ小さな幼児だった。



Lesson3 大切なものは一瞬にして消え去った

ロシア軍がウクライナに対して、この8か月間で打ち込んだミサイルの数は4,500発前後。近代史における1つの戦争で、使われたことがない量である。

左の写真はリゾート地にあったホテル。右側は、ウクライナ製の世界最大かつ唯一のムリーアという輸送機。内部の広さは、サッカー場にも喩えられるほどの広さで、この飛行機が飛行場に着陸する際には、見物客が集まっていた。2月27日に本拠地とする飛行場で駐機していたところを、ロシア軍に破壊された。



ロシアは、軍事施設しか狙っていないと主張するが、現実とは全く違う。おしゃれなワインのお店が、破壊されている。このお店が軍事施設だろうか？

あなたがこれまで大事にしてきたものを守る方法が分からないなら、愛し、大切にすることです。

ロシアで起きていること。第2次大戦当時の軍服を着て、母親が赤ちゃん連れでパレードに参加している。



多数の車で混雑している道路。ロシアとジョージアとの国境近く。左下は人で溢れる空港の様子。プーチンが発表した動員令から逃れようとする人々である。右下は、戦争反対の運動を一人で行っていた女性。

結果的に、プーチンは30万人の兵士を動員できた。その動員兵たちは、訓練を受けず武器も渡されずにウクライナとの最前線に置かれている。毎日戦死するロシア兵の数は1,000人位と言われている。

Lesson4 北朝鮮とロシアの行動には、直接的な関係がある。

参加者からの個人シェアリング テーマ「心の開国」

佐々木 淳

心の開国の原点として、2001年第53回日米学生会議に参加した経験。日本での開催年であったので、京都、広島、沖縄、東京で行われた。自分は沖縄でのコーディネートをを行った。



沖縄では、基地を見たり戦跡を訪ねたりしつつ、日・米・沖の学生によるフォーラムを開催した。その中で、沖縄の将来について提言を行った。防衛大学の学生が、戦争は自分も怖い、それをなくすために研究しつくす、と言い放ったことがとても印象深い。

沖縄には「イチャリバチョーデー」という言葉があり、「出会えば兄弟」という意味だそうだ。言い換えれば「出会わなければ他人」ということでもある。会って話をするのが「心の開国」につながる。

成 豪哲

「開国」というと、ペリーの黒船が思い浮かぶが、これは外圧による開国だった。「心の開国」というと外圧では難しいのではないか。



弁護士として考えることだが、法的解決の方法としての和解には「心の開国」が必要だと思う。例えば、相続の問題で親族間の争いを治めるには「心の開国」による和解が必要だ。和解に至るためには、タイミングが大事だし、さらに相手の気持ちや考え方を理解することも大事。このためには「心の開国」が必要となる。

吉田美穂子さんのコメント

自分も弁護士として思うのだが、確かに和解の際には「心の開国」が必要となる。ただ、裁判では外圧も必要で、例えば当事者ではない中立的な裁判官の存在はそれに当たるのではないか。国際間の紛争でも国連や国際機関の存在が必要となると思う。

グループディスカッションのシェアリング

- 日本人のスタイルとして、個人攻撃を控えて相手に遠慮しつつコミュニケーションを行うという点は、決して悪いことではないが、それが悪く出ると組織や人間関係の硬直性などに繋がることもある。
日本人が自分の良い点、悪い点を知ることが大事。一人ひとりが考えていけば、私たちの社会にも影響が及ぶのではないか。
- 和解とか歩み寄りということが話題に上がったが、これらは我慢や妥協ということにもつながるものであり、これが度を超すと「角突き合わせる」ようなことにもなるのではないか。
過剰な我慢や妥協ということを避けるためには、お互いの信義を大切に譲り合うことが大事。皆で出会うことを大切にしたい。
そうした経験を重ねる中で、たとえ小さな事であっても自分でできることを見つけ、実行していくことを心掛けたい。
- ウクライナの現況、他の紛争国の状況などが話題となった。
普段から国の備えを積極的に行っておくことが必要ではないか。
他国の人々からは、日本への期待を強く感じ、これは本当に嬉しく有難いことだ。
- 常日頃からXデーに対して備えることが大事。国のリーダーを選ぶということは非常に大事だ。他国の歴史、民族、宗教や価値観といったものを勉強することが必要で、争いを少なくするためには、広い視点、広い心を身につけること。
- 「心の開国」の反対の意味の言葉は「鎖国」。
英語の辞書では「national isolation」とある。
「isolation」の和約は「隔離、孤立、絶縁」等。
相馬雪香さんが提唱した「心の開国」は、「鎖国」よりはずっと良い効果をもたらすものだと思われるが、それではどのような心情であれば人は「心の開国」を行えるのだろうか。
「心の開国」を実現するためには、自分自身に自信があることが必要なのではないか。
- 今日の参加者には、10代、20代、30代という若い人が少ないようだ。知ってもらうためには、どうしたらよいか考えることが大事だ。
ICの活動が鎖国になってしまっはいけない。



photo by [f] mutsumi.yuba

講演録詳細については、当協会ホームページをご覧ください。

<https://www.iofc.online/>

公益社団法人 国際IC日本協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-28-20 パレエテルネル206

Tel: 03-6273-1428 Fax: 03-6273-1429 E-mail: info@iofc.jp

URL:<https://www.iofc.online/>



本事業は一般財団法人MRAハウスからの助成を受けております。